

# 学級経営に行き詰まったら・・・

森 直樹 師範塾 理事

## 1. 子どもが言うことを聞かなくなる、授業が騒がしい・・・

こんな苦勞をしている若い先生を何人も見てきました。若い先生だけでなくベテランの先生にも同じような苦勞をしている姿を見ることがあります。このように書いている私も、若い頃には同じような経験をしてきました。すでに乗り越えている先生もたくさんいるでしょうし、今年の春に担任になって苦しみのだ真ん中にある先生もいるでしょう。

ここでは、私が過去に疲れ切っている若い先生と一緒に取り組んだ経験を、まとめてみます。そのため、小学校での話ばかりです。しかし、他の学校種にも共通するものがあると思います。いま、学級経営に苦しんでいる先生がそれを乗り越えるヒントにでもなれば幸いです。

## 2. 荒れた学級の共通点

- 教室が汚い。机や椅子が整頓されず、床にもゴミが目立つ。黒板もきれいに消されていなく、掲示物も半分はがれたものがあったり破れているものがあったりして、雑然としている。
- 子ども達同士のけんかや言い争いが多い。言葉遣いが荒っぽく、とげとげしい。いたわりの言葉よりも、冷やかしの言葉や否定的な言葉（やめろ！～しないでください！いやだぁ～！）の方が目立つ。温かな笑い声が聞かれなくなり冷笑が増える。
- 授業中に私語が多く、課題に対してやる気の無い雰囲気漂う。
- 当番活動や係活動では、一部の子どもだけが頑張り、他の子どもは、遊んでいる。
- 先生の指示や注意に対して、従おうとしなかったり、口答え・ふて腐れた態度をとる。
- 先生が注意したり叱ったりすることが多く、時間も長い。
- 先生は疲れていて、教室の汚れに気づかなくなっている。気付いていても、子ども達が片付けないからと、あきらめている。
- 学年で集まる時など、子ども達が先に来て、先生は遅い子どもと後から来ることが多い。そのため、多くの子どもは先生の視野の外にいる。
- 「ちゃんと、しなさい」など、抽象的な指示が多い。
- 子どもにまかせてしまうことが多く、その結果、一部の我がままな意見に流され、全体が沈滞した雰囲気となる。

子どものだめなところが目に付くので、仕方なく注意したり叱ったりする事が多くなり、注意されたり叱られた子どもは、口答えしたりふて腐れたりします。そのため、さらに関係がぎくしゃくします。教室の中がとげとげしくなり、教室環境も荒れていきます。先生も次第に疲れてきて、授業にも日常活動にも根気が続かなくなるとともに、子ども達にもあきらめに似た雰囲気が広がり、まとまりが無くなっていきます。つまり、子どもと先生の関係、教室の雰囲気が負の連鎖に陥っています。子どもの口から教室の様子を聞いて、心配になった保護者が口を挟むようになり、ますます悪化していきます。

### 3. 学級を立て直すのは、明日からではなく今から行動を！

一度崩れた学級を立て直すのは簡単ではありません。3ヶ月かかって崩れた学級は、立て直すのにそれ以上の時間がかかります。半年たってから立て直すのは、とても年度内には立て直せません。ですから、できるだけ早いうちに手を打つことが肝心です。もし、学級経営に苦しんでいると感じたら、今すぐに行動を起こすことです。

一生懸命やっているのに学級経営がうまくいかない、子ども達との関係が悪くなってきている、と感じたら2つのことをまず勧めます。1つは休み時間に子どもと一緒に遊ぶこと、もう1つは一緒に掃除や当番活動をすることです。

### 4. 子どもと毎日遊ぼう

子どもと遊ぶのは、同等の立場で共感し合え、教師と子どもの距離感を縮められる貴重な機会です。4月当初は中休みや昼休みに子どもと共に体育館やグラウンドに出て遊んでいたのが、いつの間にかしなくなっていないですか？理由はいろいろあるでしょう。次時の準備に追われたり、テストの採点に忙しかったり、個別に子どもの指導をしたり、疲労回復に一息き入れたり…。でも、これが子どもの気持ちと離れ、溝になっていきます。大変でも、子どもと遊ぶことを続けることで、先生と子どものよい人間関係が築かれていきます。積極的に先生に寄ってくる子どももいれば、本当は一緒に遊びたいのだけれども近寄れないでいる子どももいます。どちらの子どもにも声をかけ、一緒に遊ぶ輪を広げていきます。夏の暑い日には、遊んで汗だらけで教室に戻ると、一息入れてから学習を始めるちょっとした時間の大切さが共有できます。一緒に遊んだからこそ「急いで戻るよお～」のかけ声にも、子どもは素直に従います。子ども達がどんなに休み時間を楽しみにしているかがわかると、授業の終わりの時間を守ってあげる大切さもわかります。時間になったら大好きな遊びができるから、子どもは学習時間に努力したり我慢もできます。子どもと一緒に遊び続けることは、何よりも優先する価値があります。次第に学級の雰囲気の一つにまとまってきますし、毎日子どもと遊ぶうちに、一人一人の個性が見えてきます。そうすることで、子どもへの接し方も多様になり、よりきめの細かい指導ができるようになります。毎日が無理な週でも、半分以上の3日は遊ぶようにしましょう。

### 5. 子どもと一緒に掃除や当番活動をしよう

当番活動は、みんなが生活していくときに、毎日やらないと困る仕事です。誰かに押し付けたりがんばる子に頼るのではなく、順番に交代して全員でやっていきたい仕事です。それを支えるのは、先生の努力にかかっています。教室が次第に汚れていき、ゴミが落ちていても誰も気にしない雑然とした教室になるか、いつもすっきりと整頓され落ち着いた環境の教室になるかは、先生が目をそらすか、子どもと一緒に汗を流しきれいにする努力を続けるかで決まります。

まず、子どもと一緒に掃除をしましょう。一緒に給食の配膳をしましょう。一緒に植物の世話とか、牛乳パックのリサイクルとかの当番活動をしましょう。すると、一生懸命働いている子が見えてきます。決して目立たない活動かも知れませんが、一緒に当番活動をしながらか、声をかけ励ましましょう。先生と一緒に汗を流し一生懸命働く姿を、子どもはきちんと見ています。まじめに努力する子どもほど、きちんと見ています。目立たなくてもまじめに努力する子どもは、子ども達の間でも信頼されています。その子たちが、先生

を認めるようになることは、学級の雰囲気をやがて一変させます。

同時に、子どもに仕事の流れと終わりの見通しをはっきり示し、だらだらしないようにします。掃除に時間がかっているグループには、役割分担を明確にしてから始めさせましょう。例えば、「掃き→雑巾かけ」「黒板ふき→机ふき」「ゴミ集め→ゴミ捨て」などです。掃除当番や給食当番には、目標時間やきれいさなどの「目安」をいくつか決めます。努力の成果は、目で見てわかるようにし、常に意識させるようにします。掃除は、教室がきれいになるので成果がすぐにわかります。子ども達の意欲も高っていきます。

## 6. 教師も進んで整理整頓をしよう

子どもと一緒に当番活動を毎日続けると同時に、先生は率先して自分の机の上や引き出しの中、さらには教室にある棚などの整理整頓を行いましょう。先生の机の上は、次の時間に使う教具以外、何も無い状態を常に保ちます。もし、前の時間の物が残っていたら、すぐに片付けましょう。黒板は、授業に集中できるようにいつもきれいに消しておきます。日直の子どもに任せるのではなく、一緒に消します。一緒に消しながら、授業の始まりにはきれいな黒板の状態を毎時間の習慣にしていきます。

放課後、子ども達が帰った後に教室を一度見てから帰宅することも大切です。その時、箒やモップで床を簡単に掃き掃除しましょう。子どもの机の間を掃除をしながら一回りすると、学級の一人一人の子ども達の生活が見えてきます。翌日に個別に声をかけたり、全体に指導する必要が出てきたり、学級づくりの基本が見えてきます。

朝、登校してきた子ども達がきれいに整頓された教室に入ると、落ち着いた学級の雰囲気を作る第一歩です。まさに一石二鳥です。また日中は、教室の床にゴミが落ちていないか、常に目を光らせます。落ちていたら、先生が進んで拾って捨てます。「割れ窓理論」というのがありますが、建物の窓が壊れているのを放置すると、誰も注意を払っていないという象徴になり、やがて他の窓もまもなく全て壊され、さらに進むとゴミも捨てられ廃墟となってしまうとの考えです。教室の汚れも、同じことが言えます。

床がきれいになってきたら、教室の掲示物を一度見渡してみましよう。掲示物が古くなったり、画鋲が外れていたり、ごちゃごちゃと掲示されていたりしていませんか？教室全体の雰囲気に影響を与えます。教室の正面は、子ども達が授業に集中できるような配慮がされているのでしょうか？ごちゃごちゃしていると、子どもが黒板に集中できません。すっきりとさせておきたいものです。

教室の背面や側面の掲示板には、子どもの作品などが、適時に貼り変わるようにすることが大切です。子どもの手による掲示物や作品は、たとえつたないものであっても教室の雰囲気が温かくなります。子ども達は、自分の作ったものが貼られると、照れくさい反面、満足するようです。

## 7. 遊びと清掃当番活動の次に、授業を変える

私が学級経営に苦勞している先生に、まず勧めるのは上記の2つです。毎日の授業がうまくいかずに保護者から不安の声も上がってきている先生に、「まずは、子どもと一緒に遊ぼう」とか「他のことはいいから、子どもと一緒に掃除や当番をしよう」と言うのですから、反応は大きく2つに分かれます。毎日の授業のことや学級事務、行事の計画など多くの仕事があるのに後回しにすることに不安をつのらせる反応と、「つい、大事なことを忘れていました」と4月の初心に戻る反応です。反応は反応として、私はとにかく2つを勧めます。精神的に疲れてきている先生は何も手に付かなくなっている状態で、どれもこ

れも中途半端になっています。悩んでいる先生と一緒にいろいろ取り組んできた経験からたどり着いたのが、1に「子どもと一緒に遊ぶこと」、2に「子どもと一緒に掃除や当番活動をする事」、その次に「授業を変える」でした。

## 8. みんなが参加できる授業にするには・・・

4月には、授業でみんなが勢いよく手を挙げていたのに、数が減ってきたり、手を挙げる子どもが固定してきたりしていませんか？子どもが授業中に発言することは、学習に参加する意欲に関係しています。もう一度、みんなが意欲的に発言する学級を目指して、授業を変えていきましょう。

発言を増やすには、二つ大切な要素があります。一つは、先生の発問です。単に答えだけを言わせるのではなく、「わかる人は、理由も話してくれるといいね」と、自分の考えの根拠も言わせると、同じ答えでも考え方の違いが表れて複数の発言につながります。また、「同じ答えでも、発表してね」と、同じ意見を持っている何人かにも言わせませす。子ども達の意見がまとまってきたのが見えてきたら、「つまり、みんなの考えは・・・」と、まとめてやります。こうすると、一つの発問で数名の発表につながります。

もう一つは、子どもに「発言すること」の価値を分からせることです。学校で勉強するよさは、家庭での勉強とは違い、みんなで知恵を出し合い、よりよい答えを見つけ出していくことにあります。自分では思いつかなかった考えや方法を聞くことができ、学習が深まります。そのためには、一人一人が自分の意見を持ち、発言することが前提となります。全員が発言することは当たり前という学級の雰囲気を作っていくことが大切です。「発言すると、気持ちがいいんだ！」と思ってもらえたら最高ですね。

## 9. 板書で授業を分かりやすく・・・

子ども達は45分の授業時間を、一言も聞き漏らすまいと集中しているわけではありません。何かに気を取られたり、ある考えにこだわり、一人で考えをめぐらしている場合もあります。しかし学習はどんどん進み、その子どもは取り残されてしまいます。そんな時でも、黒板を見れば今は何をすべきか分かるようになっていくと、すぐに学習に参加できます。「〇〇を考えよう」「〇〇は何だろう？」など、課題は必ず板書しましょう。

板書は、途中で消さずに授業の終わりまで残しておきます。一時間の授業が終わった頃に、板書が完成するくらいでよいと思います。

また、チョークの色遣いも大切です。文字を書いて見やすい色は、白や黄色で、赤や青色のチョークで書かれた文字は見えにくいので気をつけましょう。特に赤色は、医学で言う色覚異常の子どもには見えにくいので、学級にそういう子どもがいる時は、白と黄色で板書を構成しましょう。

色チョークは大事な事柄を強調する時に使うと効果的です。「先生が黄色で書く所は大切だから、みんなは赤色でノートに書くんだよ」などと、約束として決めておくといよいでしょう。

また、自分の板書を時々チェックしましょう。教室の後ろに回ってみると、文字の大きさや色の使い方、分かりやすい構成になっているかなど、反省できます。

## 10. 教師の指示や発問を一回で聞き取らせる習慣をつけよう。

とにかく一回で聞き取ることができるように、子ども達の集中力を高めていくことが肝

心です。何度も言わなければ全員の子どもに伝わらないような雰囲気では、集中力がどんどん低下します。そのためには、おしゃべりする暇を与えないほどテンポのよい授業をしなくてはなりません。その方が、「授業中のおしゃべりは禁止」と、注意するよりも、効果があります。

また、授業中は友達や先生の話を手静かに聞き、みんなに聞こえるように話すことは基本です。ところが、これが徹底されていない様子もたびたび目にします。作業をしながら聞くということは、できる子どももいますが難しい子どももいます。ですから、教師は指示を出す時、必ず作業を止めさせて、全員を集中させてから指示を出すようにします。そして、一回の指示は一つの作業に限ってください。二つ以上になると、混乱やばらつきが始まります。他の子どもの発表を聞く時も同じようにします。そして、分かったら、うなずくなどの意思表示をさせることで、聞く時のリズムを作ってやることも効果があります。低学年と高学年では子どもの状態も違いますが、高学年だからと言って全員が作業をしながら指示を聞き取れるわけではありませんし、二つ以上の指示を必ずこなせるわけではありません。子どもの成長に合わせて、より高度な指示の出し方に変えていくのはよいですが、学級経営に苦勞し始めたら、基本に戻ってやり直して下さい。

## 11. 先生が変われば、学級が変わる

先生の姿勢は、敏感に子ども達に影響を与えます。先生の変化が子どもの目に映らなければ、子どもは先生の努力を意識できません。ですから、変化を形に表すことが大事です。今までの習慣を、先生は一度白紙に戻し、同じ取り組みでも新しい方式にあらためましょう。今までの学習や生活の仕方をやめ、子どもが「あれ、雰囲気が違う？」と感じる再出発の変化です。それには、教室環境を一変させるが一番です。放課後に、教室の掲示物を全て外し、再度、吟味して最低必要な物だけを掲示し直します。その際に、黒板の周りはずっきりが基本です。次に、教卓の上もずっきりさせ、できるだけ物を置かないようにします。さらに、教室の棚や後ろにも物をできるだけ置かないようにします。子どもが4月に初めて教室に入った時のような状態です。これだけで、翌朝、子どもが朝教室に入ったときに、雰囲気がずいぶん変わったと感じます。

その上で、先生も自分の生活を一度白紙に戻してやり直します。4月の頃の初心に戻り、子ども達と一緒に汗だくになって遊び、掃除し、子ども以上に整理整頓をします。叱る言葉を少なくし、指示も必要最小限に絞り、守ってほしいことは必ず事前に示し、子ども達を減点法ではなく加点法で評価します。「〇〇ができていない」ではなく、「今までできなかった〇〇ができるようになった」と、子どもの伸びを小さな事でもたくさん探すように見ていきます。先生が今まで見過ごし気がつかないでいた子どものプラス面を多く意識できれば、子どもを見る目が変わります。それは同時に子どもも、先生の変化に気付きます。

先生と子どもの関係が変われば、学級は変わります。学級経営に詰まったと感じたら、ぜひ初心に戻って実践してみてください。